

市川市政を考えるNo.22

駐輪ラックをもっと増やす為に

市川市では深刻な放置自転車問題が過去に明るみになり、市が駐輪場を設置するなど、対策をしてきましたが、最近では市道上に機械式駐輪ラックを設置する動きがあります。

例えば市が運営している機械式駐輪ラックは南行徳駅前にあります。中には市の土地を商店会が活用し、市の料金体系とほとんど変わらない形で運営している例があります。

行徳駅前の駐輪ラックがその例なのですが、南行徳駅前は最初の2時間無料、後6時間につき100円、行徳駅前のラックは最初の2時間無料、後4時間無料という料金体系で運営できています。

マサはこういった商店会の力や民間活力を活かすためにも、市が積極的に市道利用の促進や、規制緩和をできればと思っています。

また行徳駅前の場合、市道利用料を市に支払うことによって、財源としても寄与しています。もっと市の財産を積極的に活用し、放置自転車の問題解決と、財源確保の一石二鳥の取り組みを、マサはもっと拡大させていきたいです。



▲行徳駅前の商店会・民間業者が設置した市道上の機械式駐輪ラック

■すずき・まさ

佼成学園中、高卒業後、第14期曹候補士として陸自に入隊する。除隊後に青学夜間経営学部に入學し、フルタイムで働きつつ勉學に励み、その後LAに留學し、法律や米国の地方自治を独學し、West LA collegeにて米弁護士協会認定パラリーガルを取得する。市川市議会議員1任期目環境文教委員会副委員長歴任 昭和60年生まれ 妻と猫の2人と1匹暮らし。 政党:無所属

広報鈴木マサを受け取って頂き、ありがとうございます。昨今ではパソコンや英語を使った先進教育実現にむけて、国が動きはじめていますが、先進教育を実施する以前に、日本全体で教師の多忙化が深刻な問題となっています。

というのも、最近になって教育サービス多様化が教師の仕事量を増やし、結果、朝七時から夜十一時まで毎日長時間働く教師も珍しくありません。

例えば、昔と比べて増えた仕事を挙げると、生徒のアレルギー管理、外国人生徒の補助、保護者対応など、多岐に渡ってのサービス業務が増加し、現場や教師が疲弊している現実があります。

しかしながらマサはこういったニーズは、子を持つ親にとつては殆どの場合、正当なニーズだと思っていますし、これらのサービスを削ってしまうと、子供たちに影響が出るおそれがあります。

そこでマサは市川市が雇用している補助教員や事務員の方々に、教師の仕事をもっと振り分け、必要であるならば増員すべきと思っています。

例えば、教師が学校中の掲示物貼り付け作業などを事務員に任せたり、補助教員であるならば授業で

必要なプリント作成、もし可能であるならば採点等の事務作業を振り分けることが出来るならば、教師が空いた時間で子どもと保護者に向き合う時間がもっと増えると思っています。

先進教育導入も含め、教師の授業時間が増加する中で、教師の増員は不可欠なのですが、残念なことに教師の定員等は国や県が定めており、市独自で教師の定員を増やしたりすることは難しいです。

そこで今回は市川市が雇用している事務職員や、補助教員に焦点を置いて、教師の多忙化を少しでも解消できればと思っているのですが、皆様はこの問題をどう思われるでしょうか？

教育は日本を先進国に育て上げた、国の根幹事業です。その教育が疲弊し、柔軟性を失うような事態になれば、長い目で見てこの国が衰退してしまうのではないかと、危機感を募っています。

マサは教師の多忙化解消を焦点に、少しでも現場とともに改善提案をしていきます。

